

車椅子「コム」

ロシナンテ 飄々

唐澤 浩

◇(218)◇

長野県上伊那地方事務所から出された資料、「上伊那製造業の底から」をみて私はびっくりした。平成二十二年工業統計調査によると、県内10の圏域別製造品出荷額は、わが上伊那地域が松本、長野に次いで堂々の第3位。また東京都大田区、東大阪地区、諏訪地域等、日本を代表する製造業地域との比較で、1事業所当たりの製造品出荷額は、2位につけた諏訪地域の6億円をおよそ2倍引き離して、上伊那がタレントツの11億円。本当にスゴイ！

以上はあくまで数値上のデータなのだが、売り上げの伸び率は、間接的に、造り出される製品や製造技術等が他にぬきんでて上質であり、かつ良心的である事を物語る。発注者にはもとよりの事、世の中に対してもご奉公の誠意をもって物造りに励む技術者、経営者が上伊那地域

には多い、という事も読み込み得るデータだと思ふ。

それを実際に確かめることができるお土産品を、私は見た。近頃評判の「サクラコマ」である。コマが回転してパッと桜の花びらが開いた瞬間、伊那の里の温もりが香り立つのを感じた。

「三方よし」とはその昔の近江商人が商いの心得として代々伝えてきた経営哲学を、滋賀大学元教授の小倉栄一郎氏が簡潔に言い表した言葉だった。すなわち、商売するに当たっては、「買い手よし。売り手よし。世間よし」という円満な利益の分配と循環をめざした、いかにも日本人らしい経営理念である。件の「サクラコマ」には、時代とか地域などの隔たりを伏流して伊那に湧き出た「三方よし」という知恵の泉を見ることができ

る。このうち、まず「売り手よし」

サクラコマ

では、設計会社スワニーを中心
に伊那市内の身近な異業種間連
携がうまく成立した事。国境を
越えてグローバル化の波が押し
寄せる中、これは強靱なスクラ
ムとなるのではないか。また次
の「世間よし」は、その連携に
障害者就労施設も組み入れられ
たことである。近年、営利事業
に福祉活動を合体させたソーシ
ヤルビジネスというものが提唱
されて来たが、そのモデルはな
かなか現れない。その点でも、
「サクラコマ」は画期的な先駆
例となるはずである。さて三番
目の「買い手よし」これは「サ
クラコマ」をお土産にもとめる
お客さんが、このコマが産まれ

るまでの人間味豊かな物語にも
触れられる、ということではな
いだろうか。
ここに私は、スワニー社長橋
爪良博氏の秀でた総合経営力と
ともに、熱い郷土愛をみる。と
同時に、もう一つの幸運を感じ
る。それは、常日頃から伊那市
のブランド掘り起しに努め、独
自の発信力で温かくアピールす
る白鳥孝氏が、市長に就いてい
ることだ。市長の強力なトップ
セールスにより、サクラコマが
伊那市の代名詞きながら知れ渡
る事を私は信ずる。
（フリーライター・伊那市在
住）

題字・春日博人



絵／保科恭治